

東北海区沿岸水温予報(2005年)

海域	経過 (12~3月)	現況(4月上旬~ 4月中旬)	見通し (4~6月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定線観測結果 12月 津軽暖流(尻屋崎線)の最高水温は、各層とも平年並み、水塊深度がやや深め、津軽暖流の張り出し位置はやや東偏 3月 津軽暖流(尻屋崎線)の最高水温は、各層ともやや高め、水塊深度が深め、津軽暖流の張り出し位置はやや西偏 定地水温 12月: 上旬が高め、中旬から下旬が平年並み 1月: 平年並み 2月: 上旬が平年並み、中旬以降やや低め 3月: 上旬が低め、中旬以降高め	定地水温 4月上旬~中旬 やや高め	津軽暖流域の水温は、平年並み~やや高めで推移する。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並み。	3~4月の青森県日本海沖で対馬暖流域の水温がやや高めから平年並み、対馬暖流の勢力が強め~平年並みとなった。(3月の定線観測結果から偏差が持続すると予測し、津軽暖流域の水温は、やや高めとなった。)	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	12月 表面: 黒崎沖合30~50海里から尾崎沖合40~50海里にかけて1~3 程度低めのほかは概ね平年並 100m: 黒崎沖合30~50海里から尾崎沖合40海里にかけて1~4 程度低め、尾崎沖合20海里から椿島沖合30~50海里にかけて1~2 程度高めのほかは概ね平年並 1月 表面: 黒崎沖合0~40海里で平年並~1 程度高めの他は、概ね1~6 程度低め 100m: 本県沖合全域で2~6 程度低め 2月 表面: 黒崎沖合0~6海里で平年並のほかは、概ね1~6 程度低め 100m: 黒崎沖合0~8海里で平年並のほかは、概ね1~5 程度低め 3月 表面: 県全域の沖合40海里以内で平年並~4 程度低めのほかは、概ね1~3 程度高め 100m: 黒崎沖合15~25海里付近、トドヶ崎0海里付近、尾崎沖合30海里から椿島沖合20~50海里にかけて1~3 程度低めのほかは、平年並~3 程度高め	表面 県北部 県中部の沖合50~70海里にかけてと椿島沖合0~20海里で1~3 程度低めのほかは平年並 ~3 程度高め 100m 黒崎沖合40~50海里にかけて1~3 程度低めのほかは概ね平年並~3 程度低め	表面 期間当初はやや低めだが次第に平年並となる 100m 沿岸は概ね平年並、沖合はやや低め~平年並	表面 ・4月の海洋観測で鉛直混合が確認されたことから期間当初は低め傾向が続くことが予想される。 ・沿岸は現状の平年並が継続するが、沖合は親潮第一分枝の影響が残ることが予想される。 ・偏差持続モデルを用いた1ヶ月後の水温予測では低め基調の平年並となった。	イサダ漁では漁期当初から広く南北に漁場が形成された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	12月: 表面は平年よりやや低め~やや高め。 100m 深は平年より極めて低め~やや高め。 2, 3月: 表面, 100m 深とも平年より極めて低め~平年並。	表面は、142°E付近に帯状に親潮系冷水が南下し、この海域を中心に平年より低め~平年並。 100m 深は、概ね平年並。	表面は、平年より低め~平年並で推移。100m 深は、概ね平年並で推移するが、親潮系冷水が波及する北部沖合海域では、一時、平年よりやや低めとなる。	「宮城県沿岸の海況予測モデル」による予測を実施。岩手~福島県海域100m 深水温分布を用いた類似年は、1985年と2002年。表面では、低塩・低塩分水が北部海域から断続的に波及すると考えられる(人工衛星 SST 画像)。	
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	12月: 暖水塊が接岸し、本県海域は広く黒潮系暖水に覆われた。下層に親潮系冷水が残るところもみられるが、水温は平年並みとなった。1月: 黒潮系暖水、親潮系冷水の波及はともにみられず、水温はやや低めとなった。 2月: 親潮系冷水の波及が鶴ノ尾崎・富岡沖距岸75海里から塩屋崎沖45海里付近にかけてみられる。黒潮系暖水の波及はみられず、水温はやや低めであった。3月: 親潮系冷水の波及が本県沖距岸30海里から50海里付近にかけてみられる。塩屋崎沖距岸100海里付近にも沖合よりの親潮系冷水の波及がみられ、黒潮系暖水の波及はみられない。水温はやや低めであった。	親潮系冷水の影響が鶴ノ尾崎沖距岸50海里から、富岡沖60海里付近にみられたが、その勢力は弱く、本県中北部海域全体では平年よりやや低めの水温であった。黒潮系暖水の勢力は弱く、塩屋崎沖20~30海里付近で平年より極めて低めの水温がみられた。	引き続き黒潮系暖水の勢力は弱く、断続的な親潮系冷水の波及がみられ、水温は平年並みから平年よりやや低めで推移すると予想される。	黒潮系暖水の波及傾向が収まってきており、今後も南および沖合より暖水が波及することは予想されない。 自己回帰モデルによる予測では、期間を通して灘側は平年並み、沖側は平年よりやや低め。	・コウナゴ漁は、例年より操業の本格化が遅れ、4月上旬までで前年の約3~4割程度の漁獲にとどまっている。 ・1999年漁期より不漁が続いていたサヨリ漁は、今漁期はそれ以前程度の漁獲がみられた。 ・オキアミの魚群が、例年より早い12月中旬ころに魚探により確認され、初漁も例年より早い2月28日となった。

常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿 岸; 茨城水試 発表)	1月:前半は、前期から引き続き黒潮系暖水の影響で「平年並」～「やや高い」となった。 2月:1月後半から南下した親潮系冷水の影響で、「低い」～「非常に低い」となった。 3月:前半は、黒潮が南偏し、概ね「非常に低い」となった。後半、黒潮内側の冷水塊の通過とともに暖水舌が形成されたが、小規模なものに留まり、接岸もしなかった。	4月上旬:3月に形成された暖水舌はほぼ消滅し、再び親潮系冷水の影響下に入った。 中旬:黒潮内側の冷水塊の通過と共に再び暖水舌が形成されつつある。	5～6月:海域は概ね親潮系冷水の影響下にあり、「非常に低い」～「低い」となる。 黒潮系暖水により、断続的に暖水舌が形成され、鹿島灘では一時「平年並み」になることもあるが、影響は一時的で表層のみに留まる。	5月までは黒潮はA型で大きな流型の変化はない、6月にC型に変化するが、常磐海域に影響が出るまで時間差がある。 三陸沖の暖水塊の動向により、親潮系冷水の影響は弱まりつつあるが、6月までは持続する。 統計的解析によると1月は暖水パターンであったが、2～4月までは冷水パターンであり、冷水傾向が継続する年は概ね6月まではその傾向が持続している。	4月の観測において、犬吠観測線でクリオネが採集された
--	--	---	--	---	----------------------------

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い (20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並 (40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い (20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い (7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~